

殿ヶ谷戸庭園「ハギのトンネル」更新と技能伝承の取組

1. はじめに

殿ヶ谷戸庭園は、武蔵野段丘の南縁の「国分寺崖線」と呼ぶ段丘崖とその下端部付近の礫層から浸出する湧水を利用し、雑木林の風致を活かして造られた近代の別荘庭園であり、国の名勝指定を受けている。(写真-1)

本園を含め首都東京にある9つの都立庭園は、古くは江戸時代から続く歴史や文化、生活や伝統などを現代に伝える文化遺産である。

私たち東京都公園協会文化財庭園課は、この貴重な都立庭園の価値を高め未来に継承することを使命とし、個々の庭園が持つ特性の理解を深めつつ、庭園景観を保全するための技術や技能の蓄積と向上に努めてきている。この取組の1つとして、平成20年度より庭園技能伝承研修を実施している。庭園技能伝承研修は、「文化財庭園の保存・復元・管理等に関する専門委員会」の答申を受け、庭園技術・技能の伝承及び技術者育成の一環として行い、マツや株物等の植栽手入れ、個別庭園に伝承された工作物・添景物の管理手法、また都立文化財庭園の保存活用計画（保存管理計画書）に記載されている庭園の現状課題を解決する事を目的としている。本稿では、これまで技能伝承研修を通じて伝承してきた竹工作物管理の伝統技能を用いて取り組んだ、殿ヶ谷戸庭園「ハギのトンネル」の更新について報告したい。



写真-1 殿ヶ谷戸庭園「芝庭と主屋」

2. ハギのトンネル

ハギのトンネルは、国の名勝及び史跡の指定を受ける向島百花園で始まり、明治時代より主要な景観要素として存在し続けている。殿ヶ谷戸庭園には、昭和54年の有料庭園開園前の東京都による整備で南西の主要園路上に設置された。向島百花園とともに、竹のトンネルを覆うように生育したハギが9月下旬に満開となり多くのお客様が観賞に訪れる秋の名物となっている。

(写真-2)



写真-2 殿ヶ谷戸庭園「ハギのトンネル」

3. 更新の目標と課題

殿ヶ谷戸庭園のハギのトンネルは、前回の更新から6年が経過し竹の劣化が目立ち始めて更新時期となっていた。更新にあたっては、「ハギのトンネル」をテーマにした平成29年度の技能伝承研修にて確立し伝承してきたトンネル状に竹を曲げて加工する技術や組上げる工法を基本とし、向島百花園と連携して取り組むこととした。

ハギのトンネルの更新では、均整のとれたアーチを描く加工した竹を量産する必要がある。アーチは竹に熱を加えながら曲げるのだが、当園での前回更新時は、手の力で曲げやすい竹の先端に近い細くなっている部分を加工しており、これが経年後に折れ等の破損をまねく原因となっていた。そのため、今回は研修で確立された竹加工台を用いて、竹のできるだけ太い部分を曲げ加工することで経年劣化を少しでも抑えること、また主屋から西側に広がる洋風庭園の景観

に馴染むように、より均整の取れたトンネルに仕上げることで、この耐久性と美観の向上を目標に掲げた。そこで、向島百花園より竹加工台を移設し作業を始めようとしたが、当園のトンネルのアーチは角度が大きく幅も広がったこと、また入り口が斜めに切れ上がり出口付近はきつくカーブした複雑な形状になっていることから、研修で確立した加工台などの工法をそのまま利用することはできず、更新には殿ヶ谷戸庭園専用の加工台の作成と当園ならではの仕様への対応が必要となった。

4. 課題の克服と目標達成に向けて

既存トンネルの鉄枠のアーチ曲線の形状に合わせて型を取るところから始め、竹を加工する台を作成した。竹を曲げる作業では、加工台に置かれた竹の上部を焦げないようにトーチバーナーで丁寧に炙り、適度に熱を帯びたところで、型のカーブに合わせて曲げ反対側から丸板で留め押さえ、熱を冷ましながらかさを固定する。(写真-3)肉厚の違いなど1本ずつ違う自然素材のため、この「適度に熱が帯びたところ」の見極めが難しい。更に向上の目的から、先端の細い部分を除いた直径が2センチ近い太い部分を加工しているため、当初は想定外に硬く折れたり割れたり失敗を繰り返した。しかし、判断の基準となる変色度合や手に伝わる微妙な感触などを見極める技量を、向島百花園技能主任の現地指導の下で何度も繰り返し体得に努めた結果、最終的には必要本数 163 本の均一に曲げた竹を量産する事ができた。(写真-4)

現地園路上での組立て作業では、縦横の竹が 25 cm 間隔で可能な限り直角に交差する形状となるように、園路両側に寸法を確認する板を水平に設置し遣り方とし、時折離れた場所から景観上の違和感がないかを確認しながら、合計 295 本の竹を組み上げ作成した。カーブがきつい箇所では、横に通した竹が真っすぐになろうとする反発力が強くトンネルが歪む程であったため、見た目の違和感がないように気を付け、縦の加工した竹の間に一本ずつ竹を追加し反発力を相殺した。また微妙に形状が違う鉄枠に合わせて何度も結束を解いて調整しアーチの仕上がりにこだわった。斜めに切れ上がった形状部分については、アーチに沿って滑らかな美しい角度や長さとなるよう、縦の加工竹を設置した後にラインを出しながら検討し、縦の竹を少しずつ切除しながら組み上げ、ハギがない季節にも竹工作物として観賞していただける仕上がりにできた。(写真-5)

5. 今後の展望

私たち東京都公園協会は、都立9庭園で伝統技能見学会などを通じて、マツなどの植栽管理技法の解説や雪吊りなど季節の風物演出など、庭園景観を維持管理する技術や技能を幅広い世代の利用者や国内外に向けて発信している。今回の殿ヶ谷戸庭園でのハギのトンネル更新作業の内容も伝統技能見学会参加者に説明し好評を得ることができた。これからも、私たちが引き継いできた伝統技能を用いた維持管理により主屋を視点場にした芝庭景観や紅葉亭からの湧水を湛える次郎弁天池と崖線を見下ろす眺望景観を整えていくことで、国指定の名勝「殿ヶ谷戸庭園」の価値を保存し更に高めながら、確実に次世代に継承していきたい。

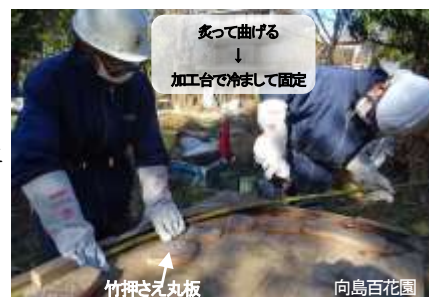


写真-3 竹加工台 (技能伝承研修)



写真-4 殿ヶ谷戸庭園での技能伝承の様子



写真-5 更新後の「ハギのトンネル」